

豊前国時枝領百姓騒動史料(1)

豊田寛 三一

時枝領五千石は、現、大分県下唯一の旗本領である。元祿十一年（一六九八）、封地を没収された中津城主小笠原長胤の弟、長宥は、豊前国宇佐・下毛両郡一カ村を与えられ旗本に列したのである。以後、廃藩置県に至るまでの一七〇年間、宇佐郡時枝村に陣屋を定めて支配をした。

この地域の支配の特徴については、既に渡辺達也氏によって「豊前国時枝領の支配とその構造」（『大分県地方史』八〇・八一号）という好論があり、筆者もまた、氏の業績を踏まえて『大分の歴史』第六巻「農民と一揆」において、特徴を指摘したため、ここでは再論を避けたい。

さて、以下に紹介するのは、この時枝領における百姓騒動の史料であり、そのいづれもが大庄屋であった田口家の所蔵にかかるとのである。一、の享和三年（一八〇三）の村方騒動は、『宇佐市史』中巻では年未詳とされているものである

が、諸史料より享和三年のものと確定される。この事件については、前掲『大分の歴史』において論じているのでご参照いただきたい。二、の文化九年のものは、有名な、文化八年岡藩に端を発し、二豊の地をまきこんだ文化一揆の波及である。時枝領では打こわしなどは発生していないが、五ヶ条の要求がだされていることは、注目されることである。

本号においては、紙数等の関係から、収録しえなかったが、以後天保七年（一八三六）、安政二年（一八五五）にも、当領内では、一揆が発生している。とくに安政の騒動は、闘争としても激しくまた、史料も多く残っている。以下の号において逐次紹介していきたい。

一、享和三年村方騒動史料

1

(表紙)

「村方一件惣左衛門殿被取斗之節百姓共申出候趣扣」

御註進申上候御事

一、田口組猿渡村御百姓共、去冬庄屋又兵衛ニ対し出入之

儀ニ付強訴躰之儀出来、大庄屋加庄屋取斗不相用趣、依之此度私共罷越、取鎮仕候様被仰付候故、去ル十三日右同村正覚寺へ罷出村中及吟味候処、去秋取立方諸帳面清算之上割合致替度旨、其上別紙以書付願出候ケ條一々穿鑿仕候処、左之通、

当人共書出之書付

一、神田高御年貢徳米之事と御座候、

此訳、去ル子年神楽米を以賣田地御座候故、五畝余村方相談之上買取神田ニ仕候処、其後徳米庄屋年々預り分、此度勘定致受取御供屋普請仕度旨

一、金福寺年々徳米之事

此訳、式拾年余庵室取崩し、屋敷売之地代并回国こくに之者寄附銭、其外佛供田徳米年々庄屋方ニ預り分、此度勘定致し受取、右寺建立仕度旨

一、庚申堂年々徳米之事

此訳、去ル寅年頃佛供田徳米并御領中右御祈禱料共ニ庄屋受込罷在、庚申堂修覆不致甚以及破損、本尊同村山伏方へ預ケ置候様罷成、歎ケ敷奉存候ニ付、徳米等算用仕受取造作致、本尊安置仕度旨

一、正覚寺溝成地代時枝当村出銭之事

此訳、右地代正覚寺江者不相渡、溝成御年貢八寺取立之義不承知之旨

一、庄屋役高三拾石ニ村中一同願立之事

此訳、役高五拾石之處、三拾石ニ減し度旨

一、同出高拾石ニ右同断

此訳、式拾石之處、拾石ニ減し度旨

一、同夫米五斗ニ右同断

此訳、老石之處、五斗ニ仕度旨

一、同筆紙墨五斗ニ右同断

此訳、七斗之處、五斗ニ仕度旨

一、油代老斗ニ右同断

此訳、式斗五升之處、老斗けんじ仕旨

一、山之口兩人拾石ツ、ニ右同断

此訳、老人勤御引高拾五石之處、介山之口相立五石相増拾石ツ、之処、助役無之処、老人ニ而式拾石引候義、不約得ニ付、五石増し分減シ仕旨

一、組頭助夫除之処右同断

此訳、引高拾石ツ、之上助夫式拾人ツ、之分相除申度旨

一、正覺寺役高拾石ニ右同斷

此訊、拾八石ツ、引來り候処拾石ニ減シ度旨

一、村中寄合之節無酒ニ申極之事

此訊、一切酒給候義御停止候、折処酒相用候趣無用

ニ仕度旨

一、戌之年取立無給之事

此訊、組頭源右衛門取立致方不宜ニ付給米取返申度旨

一、庄屋取立無給之事

此訊、庄屋又兵衛倅圓平致取立候義、庄屋給ニ御座候

間、取立給ハ取返し申度旨

一、又兵衛退役願書江戸沙汰相成候由、兼帶庄屋并源右衛門

退役之事

此訊、庄屋又兵衛退役願書差出候由及承候処、江戸表

御窺ニ相成候旨、此上者又兵衛差凶受不申候間、兼帶

不被仰付候ハ、御用御問合申間敷と奉存候ニ付、兼帶

庄屋御願申上候旨、組頭源右衛門儀者取立致方不宜庄

屋同心故退役願仕度旨

此外平田井手秣川除兩処出夫四人役取來り候処、三人役

ニ致候故納得不致耆人役ツ、相増申度旨、其外役目取斗

方不宜義有之ニ付割方致直し取引仕度、猶又出米立方相除

候口、多ク御座候段、并御年貢引方ニ付取斗惡敷勝手筋之

義御座候間、致替米受取申度旨、村方四拾年以來段々困窮

仕御百姓相統難波仕ニ付奉願候旨

右之趣申出候ニ付申渡し候者、願方之内相叶候義茂有之、御

定法相極り候儀者不相叶筋も有之候、此節取斗被仰付罷出候

ニ付可申間間、承知致内濟候様申渡候処一圓承引不仕、是非

願之趣御役処江村中一同罷出申上度旨、強而口々申出候、何

分聞入不申ニ付、頭分ニ候者才兵衛助右衛門幸右衛門度々召

呼理害申聞候得共、如何躰之御答被仰付候而茂村中一統相願

受合候義ニ付、願立申度段不得止事申募候ニ付、無抛此段御

訴申上候処少茂相違無御座候、右頭分之者方自筆之書付相添

差上申候、以上、

亥

差添上秣庄屋

閏正月

半右衛門印

十七日

深水惣左衛門印

時枝

御役所

〔裏表紙〕

田口治部藏扣

2

〔表紙〕

「御吟味ニ付申上候御答書」

乍恐御吟味ニ付申上候口上之覽

一、神田高德米之事、年々私預り分此度勘定受取度村方方申出候、此儀別紙帳面差上申候通、子年神楽米御座候故村役人相談之上、五畝三步買取神田ニ仕候処、右徳米を以地代不足米ニ仕、宮戸帳等相調江代錢仕、其後余米村方頼母子ニ指加り七ヶ年掛込置申候間、間当り申候節案屋普請可仕候与奉存候、委細帳面相記差上申候役方を以預り候義ニ而、少茂自由勝手ニ仕候義ニ而無御座候御事

一、金福寺年々徳米并屋敷賣立地代廻国之者寄附錢等勘定仕、村方ニ受取寺建立仕度旨申出候趣、此儀金福寺ハ前々四ツ足堂ニ而御座候処、私伯父和三与申候もの寺地寄進仕小寺建立仕候義故、村方ニ相抱り申候儀無御座、庵主之儀ニ御座候間、是迄寺物一切世話仕候義ニ付田地等相求メ無尽にも相加り居申候間、取当候節ハ先祖共仕置候儀

故小庵ニ而茂普請仕、右田地調へ堂ニ附置申度奉存罷在候、尤引当テ御座候ニ付何時茂被仰付次第可仕候、勘定之所ハ別紙書付奉懸御目候通ニ御座候御事、

一、庚申堂年々徳米并御領中ハ御祈祷料共ニ相受込、庚申堂修復不仕及破損候段敷敷、徳米等算用仕村方ニ受取造作仕度旨申出候趣、此義先住光明院年々借用御座候間、寅年已来徳米等を以返弁仕漸四年迄ニ相片付候ニ付、戌年ハハ妙達院ニ引渡申候、則指引帳面懸御目申上候御事

一、正覚寺溝成地代時枝当村出錢之儀、私預り分此度算用仕受取度申出候旨、此儀ハ時枝村方差出候、半分ハ橘屋江預り寺庫裏普請之節寺江相渡申候、村方方差出候半分ハ私預り置、寺須弥壇建立仕度存念ニ御座候、則別紙勘定帳面之通少も相違無御座候、溝成御年貢ハ正覚寺方上納仕候筈、是ハ明白ニ帳面ニ相分居申候御事、

一、庄屋役高三拾石ニ仕度村方一同願候趣、此儀ハ御定法古来方相極り、村方四百石以上ハ五拾石ニ被仰付候義ハ、御領中一統之御儀ニ御座候御事、

一、同出高拾石ニ願候旨、此儀先規方拾九石引來申候所、御領中一同役高之平方引候ニ付、当村も同様可仕被申付、

脇村並ニ式拾五石宛引来申候、當村一村ニ限り不申候義
ニ御座候御事、

一、同夫米五斗ニ仕度旨、是又御定法卷石ニ相極り申候儀を
勝手之節願出申候御事、

一、同筆紙墨五斗ニ仕度旨、此儀ハ古来ハ七斗ニ御定法御座
候義右同断之御事

一、同油代卷斗ニ仕度旨、此儀も前くハ式斗五升宛立来り申
候御事、

一、山ノ口兩人拾石宛ニ願度旨、此義山ノ口役高拾五石之所、
當村ハ世話方行届兼申候ニ付、助山ノ口相立五石増シ高
分人夫三拾人宛遣申候而兩人ニ而拾石宛之処、助役仕候

人頭無御座候、山ノ口卷人役ニ而出精仕候ニ付五石分増
遣申候、是又村方相談之上相極候義ニ而去年斗リニ無御
座候、前く右之通ニ仕来候御事、

一、組頭助夫除候様仕度旨、此義ハ當村ニ限り不申、組頭ハ
小給之者故難相勤ニ付、夫役遣候義ニ御座候、勿論去年
ニ不限村方相談之上式拾人宛夫役遣申候御事、助夫

一、正覚寺役高拾石ニ仕度旨、此儀ハ前くハ寺社之儀ハ高
引来り申候、是又當村ニ不限御領中同様之御事ニ御座候、

一、村中寄會無酒ニ申度旨、此義ハ前くハ御規定被仰付候
儀故、決而寄會ニ酒給申候義無御座候御事、

一、戊年取立無給ニ仕度旨申出候段、此義ハ御年貢取立之義
ニ御座候間、無別定及皆済一切取遣相片付候上、尚又凶
年程骨折申候処、給米取返し申候与相願候義有間敷筋ニ
奉存候御事、

一、庄屋取立無給ニ仕度旨、此義ハ村方ニ取立候者無御座相
願申候得共、極り候給米ハ何レ之村ニ而も受取申候、當
村之義全取立仕候ニ而無御座候、世悖圖平手馴申候為ニ
村方及相談取立為仕候義ニ御座候処、無給ニ仕度之申儀
如何敷奉存候御事、

一、平田井手御役目秣川除出夫、前く當村ニ不限組中一同三
人役宛遣米候処、當村ハ高片付居申候故、近年当り役目
ハ四人ニ仕候得共、去戊年ハ御役目甚多分御座候ニ付、相
談之上脇村同様三人ニ仕候所、四人ニ致割直し申度申出候、
其外出方取除度口く御座候由躰尚又引高不直成致方
御座候旨申出候、右躰之儀ハ相談之上取遣一切相片付候
義を、今更右躰申出候而ハ何分致方無御座候、不承知之
趣ニ御座候、自由勝手筋有無之儀ハ御糺明被下置候得者

委細相分り申候御事、

右之通御調へニ付奉申上候処少茂相違無御座候、乍然御裁許之義へ御下知次第奉畏可申、村方御静謐ニ不相成段申上方茂無御座、奉恐入候、以上、

亥 猿渡村庄屋

閏正月廿一日 又兵衛 判

前書之通御吟味被仰付相糺し申候所、相違無御座候ニ付加判仕書付指上申候、以上、

同村加庄屋

良左衛門判

立入上秣村庄屋

半左衛門判

二、文化九年一揆關係史料

(表紙)

一、日記

文化九年

申正月

(正月)

十一日

一、中津領御添地之百姓共徒党いたし御役人中鉄三百人程ニ而鉋大筒ニ而陣立之用意ニテ御越、為見物小倉池迫參ル、引取候而御差紙到来触出ス、

一、御陣屋出勤中津領騒動注進

(五月)

十日

(中略)

一、当御領内百姓共方一心得違及騒動候節ハ小倉御人数被遣候趣、江戸表御沙汰ニ付小倉郡奉行御時枝御陣屋へ御文通有之候事

(中略)

晴

廿二日 先達御領中御願申上候五ヶ條之内此節左之通被

仰出候

一、早米之儀、年ニ不抱遅速九月廿五日夕津出御願申上

度事、

一、種子元米之儀、当年夕五ヶ年賦利付元共ニ上納仕度

事

右式ケ條ハ願書之通被仰付候事

一、米穀共四斗式升納、ノリ之分御用捨之事

一、米見手江請改并さし竹三勺三才之事

一、納米欠相立候節科料錢御用捨之事

但、科を糺候者御大法ニ候之間、欠立候者相當之

答メ可被仰付候、

附り、他領分入作之ものハ是迄之通科料錢被仰付

候事

右三ケ條ハ古格之通ニ被仰出候、勿論右いつとなく時之

御役人之見斗ヲ以取扱来候事故、今度下モ方願立を御取

上ニ而被仰付候与申筋ニ者無之、上より右格ニ御正被下

置候御趣意候事、

一、さし竹之事ハ迄^マ寸法其外共取極メ、御陣屋之焼印押

候上、下モ方疑念無之ため、在中にも増焼印力押候

而相用候間、近々焼印仕立可申事

但、四五步四方之角焼印可然候、六月廿日比迄ニ

出来置可申事

附り、右焼印ハ大庄屋元へ平日預り置可申、

一、種子元米年賦割合上納之石數、村々書付帳面ニ仕立

近く可差出事

一、願書式ケ條ニ認直し可出事

右之通、今日於御陣屋以書付被仰出候間扣置候

五月廿二日

深水惣左衛門殿

田口 治部藏殿

右之通相違無御座候ニ付奥印仕差上申候、以上、

田口治部藏判

深水惣左衛門判

時枝

御役所